

# 人と森林の“共生”をもう一度

森林を守り、育て、後世に伝えたいと頑張る

NPO法人「森林(もり)をつくろう」

## 元気な山を取り戻そう

自然豊かな佐賀県は、たくさん山の山々に囲まれています。しかし、山主の高齢化や、後継者不足、国産木材価格の低迷などで、手入れの行き届かない山林がどんどん多くなっています。この荒廃していく状況を少しでも改善し、元気な山を取り戻そうと活動しているのがNPO法人「森林(もり)をつくろう」です。

森林は、水資源をはぐくむとともに、土砂崩れを防ぎ、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなど環境を守り、私たちの暮らしを守るという大切な役割を果たしてくれています。

「森林と人間は昔から共生のパートナーでした。先祖が私たちに残してくれた自然の財産に



「森林と人間は昔から共生のパートナー」と話す、NPO法人「森林(もり)をつくろう」理事長の佐藤さん

## 山や木が取り持つ人と人とのコミュニケーション

「森林をつくろう」では、親子を対象とした植林活動を行うほか、山の魅力やそこでの生活を子どもたちにじかに感じてもらうという林間学校を開いています。「まき割りをして、木の良い匂いに気が付いたり、山の水が冷たくておいしいことに気が付いたりしたことを、子どもが家に帰って家族に伝える。

山は子どもにも何か新しいことを気付かせるフィールドであることが、こうして人に伝わることも、山からの発信の一つだと思っております」と佐藤さん。

また、木の優しさやぬくもりを肌で感じてもらうと、全国の大学生を対象として国産木材を使用した木造住宅の設計コンペを毎年開催。「木造住宅をあまり知らない世代がこのコンペに参加することによって、国産木材の良さや、昔ながらの木造住宅の機能性、造形美に

改めて気付いたという声をよく聞くようになりました」。

この設計コンペでは、施主や木材を提供してくれる山主、設計者との間に交流が生まれ、林間学校や植林活動では、子どもたち同士や、家族のコミュニケーションが生まれています。「山が人と人とのつながりや感動をもたらすなど心の豊かさをはぐくむ存在であることに、もう一度気が付いてほしい」と佐藤さんは言います。



林間学校は、子どもたちに山の魅力をじかに感じてもらう貴重な体験の場となっています



まき割りなど山での生活を体験する子どもたち



木のぬくもりや匂いを肌で感じとる家族



コンペを通じて人と人との新しいつながりが生まれます



木の優しさ、ぬくもりが感じられる国産木材を使った家



植林活動を通じ山への思いを深めてもらいます

もつと感謝しながら、荒廃した山をもう一度元気な姿に再生し、山や森林を育てる「この大切さと、元気な山を豊かな自然財産として次の世代へ伝えたい」と理事長の佐藤和歌子(さとうわかこ)さんは言います。

NPO法人を立ち上げてから3年。「山の大切さをもっと多くの人に伝えられる情報発信源となれば」と、精力的に活動を続けています。

## 山を守るために 私たちにできること

今年4月から、佐賀県では森林保全のため「森林環境税」が導入されました。「この制度が導入されることにより、なぜ山が荒廃してしまったのかという過程を振り返り、山が元気になることがどう



「皆さんが山を守ろうという気持ちを持ってもらえるための情報発信をしていきたい」と話す佐藤さん

いうことなのかを改めて認識した上で、皆さんが山を守ろうという気持ちを持ってもらえればと思います。そのためにも、山や森林の素晴らしさを多くの人に情報発信していきたい」と佐藤さん。その熱い思いもまた、山のように大きく膨らんでいます。